

受領No. 1689

生と死の境界を超える技術とその倫理的・法的・社会的課題の検討

代表研究者 土屋 裕子（東京科学大学・リベラルアーツ研究教育院 研究員）

An Examination of the Ethical, Legal, and Social Issues of Technologies Transcending the Boundary Between Life and Death

Representative Yuko Tsuchiya (Researcher, Institute for Liberal Arts, Institute of Science Tokyo)



研究概要

近年、先端的な科学技術の進歩により、「生」と「死」の境界がかつてないほど曖昧化しつつある。たとえば、意識情報や脳の活動をデジタル上で保存・再現し、死後も意識や人格を保持し続けることを目指す技術や、生殖補助医療と凍結保存技術を組み合わせることにより、本人の死後に子どもを誕生させる事例などが現実に報告されている。これらの技術は、死後における存在の継続や生の再創出を可能にする一方で、従来の死生観や人間観を根底から揺るがす問題を孕んでいる。また、こうした技術の登場は死の一義的理解を困難にし、死者の扱いに関する法的・倫理的ルールの見直しを迫ることにもなる。

本研究は、科学技術が「死後の世界」にまで介入し始めたことにより、「生」と「死」の境界がどのように揺れ動き、変容しつつあるのかを検討するとともに、それに伴って浮上する倫理的・法的・社会的課題（ELSI）を包括的かつ体系的に明らかにすることを目的とする。また、学術的な議論と実務・社会的感覚との乖離・接点を明らかにするとともに、生と死の境界に関わる技術に対して社会として一度立ち止まり、その意味や影響を社会全体で問い直す契機となることを目指す。